

全国消費者団体連絡会の食のグループと食品安全委員会委員との懇談会

1. 日 時： 平成15年8月1日(金) 14:00~15:55
2. 場 所： 食品安全委員会中会議室
3. 出席者：「全国消費者団体連絡会の食のグループ」(氏名50音順)
 - ・東京消費者団体連絡センター 池山 恭子
 - ・全国農協青年組織協議会 伊藤 悟
 - ・日本有機農業研究会(個人メンバー) 伊藤 康江
 - ・東京都地域消費者団体連絡会 江木 和子
 - ・全国消費者団体連絡会 神田 敏子
 - ・全国消費者団体連絡会 高野ひろみ
 - ・JA全国女性組織協議会 木村 浩一
 - ・JA全国女性組織協議会 野口 洋子
 - ・日本生活協同組合連合会 北村 洋
 - ・日本生活協同組合連合会 中野 勲
 - ・東京都地域婦人団体連盟 飛田恵理子
 - ・家庭栄養研究会 蓮尾 隆子
 - ・日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 三村 光代
 - ・日本消費者連盟 山浦 康明
 - ・主婦連合会 和田 正江

(敬称略)

< 食品安全委員会委員 >

寺田委員長、寺尾委員長代理、小泉委員、見上委員、坂本委員、中村委員、本間委員

< 食品安全委員会事務局 >

梅津事務局長、一色事務局次長、藤本勸告広報課長、西郷リスクコミュニケーション官、
宮寄評価調整官

4. 議 事

- (1) 委員長挨拶
- (2) 全国消費者団体連絡会事務局長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 各参加団体紹介
- (5) 意見交換

5．意見交換の概要

グループからは次のような質問・要望があり、委員長等との意見交換が行われました。

(グループからの主な質問)

7月1日に食品安全委員会が設置されて以後、31日までに5回の委員会が開催されてきましたが、傍聴してきた範囲では審議会的な運営になっている印象を持ちました。今後、専門調査会や食品安全モニターなどが確立して、委員会としての本格的な活動が進められていくものと思いますが、委員会として独立したリスク評価機関たるためにはどのようなシステムを考えておられるのか、その実効性の確保の手段をご説明いただきたいと思います。

消費者が食品の安全に関連して不安に感じていることや、安全性が問題になっている物質があり、それについてのリスク評価を実施してほしい場合には、消費者はどこに相談すればいいのでしょうか。例えば食品安全委員会で受け付けてもらえることはできるのでしょうか。企画の専門調査会や食品安全モニターなどがその窓口となると思われますが、その他の窓口としてどのようなものが考えられますか。

リスクコミュニケーションについては、食品安全委員会でも重点課題になっていると思いますが、食品安全委員会ではリスクコミュニケーションの概念について、どのように位置付けられておられますか。HPでの情報の公開も始まっていますが、リスク評価を実施する際のリスクコミュニケーションについては、今後どのような内容を検討されていますか。また、リスクコミュニケーションの制度的保障はどのように考えておられるのでしょうか。

(質問に対する意見)

何を評価対象として取り上げ、どのように情報収集していくかという事は、非常に重要なことと考えています。このため、適切な情報収集システムの基礎を確立していきたいと考えています。

最新の情報を如何に集め、どこから情報を取り入れるかということが課題であるとと考えています。

当委員会の窓口として「食の安全ダイヤル」を設置しているので、ご活用下さい。

評価を行う際、対象として取り上げた時点からリスクコミュニケーションが始まる。消費者が間違った印象や結論を持つことのないように平時からのリスクコミュニケーションに努めていきたいと考えています。

〔この他の主な意見〕

リスク評価機関とリスク管理機関との間では、独立性とともに緊密な連携と協力が必要である。

リスク管理についてもリスク管理機関だけでは困難な場合のリスク評価機関の関与、協調の在り方など役割の整理が必要である。

パブリックコメントを行う際には、丁寧な対応と意見の反映状況の明示をしてほしい。

専門家はもっと分かりやすく説明を行うべき。

どこまで安全が判明しているかといった情報発信の在り方を考えてほしい。

クローン技術など新たな食品に関する技術について、実生活における有用性の議論の場の提供が必要。

食品の安全性について、その結論の説明だけでなく、安全であるという結論に至るプロセスの説明が必要。